

‘02 夏山合宿報告書

‘02.08.10~08.13

後立山連峰：爺ヶ岳～白馬岳

参加者：CL竹内、鈴木、板倉



（合宿を振り返って）

合宿参加予定者が鈴木、竹内の2名と少なく盛り上がり欠ける人員となったが計画途中より部のリーダー板倉さんが2日間同行してくれることになり、前半は3名、後半は2名の合宿となった。行ってみたい山でもあり、準備を進め実施できた。

（トレーニング）

- ・ 足慣らしとして例会で常念岳を登り良いトレーニングとなった。

（準備）

（共同装備・食料）

- ・ 軽量化を考えテントは個人用を使用（3人用）
- ・ ストープはガスカートリッジとEPIを準備した
- ・ 食料では今回、米はアルファ米を使用

（行動）

- ・ 出発時に、部長に見送りに来て頂き、合宿を頑張るぞ、という気分で出発できました。
- ・ 日々の行動は、予定通り進み、問題なかったと思います。
- ・ 気象情報で天気図をしっかりと画けるように日頃から練習する必要を感じました。

最後になりましたが、留守部員の方々をはじめ、差し入れおよび、お見送りをして頂いた方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

【装備について】

全体的には軽量化で無駄の少ない装備となった。

- ・ 燃料はEPI ガス 230g×2個、480g×1個 持参
- ・ カートリッジ使用状況

朝3回、夕方3回(480g×1個)

(食料に使うお湯を沸かすのに使用、暖房等には使用してない。)

【食料について】

今回はアルファ米を使用してみた。

焦げることはないので炊飯の失敗は起きない

味は普通においしい。

コストが高い(2食で450円)

【会計報告】

収入		支出		
差し入れ 藤田部長 浅田さん	5000	食料	(4645/人)×2	9290
		交通費		
		刈谷→大町	(6390/人)×3	19170
		大町→扇沢(タクシー)	(1167/人)×3	3500
		猿倉→白馬(バス、タクシー)	(2050/人)×2	4100
		白馬→刈谷	(7430/人)×2	14860
		テント場(3箇所)	(1500/人)×2+500	3500
合計	5000			54420

費用=23182円/人

藤田部長・浅田さん差し入れ有難うございました。

その他

携帯トイレの使用感について

今回、部長の提案により、携帯トイレをテストしてみました。

その感想

臭いは多少あるように感じる。(気のせいもある)

固まらないので外に飛び出るのではないかと心配になる。

食料は行動と共に少なくなるが、トイレの汚物は逆に増えてくる

食料とトイレと一緒にザックに入っているので嫌な感じである。

大便の量が多いと袋が一杯になる。

以上より縦走などになると、荷物が多くなり大変さを感じる

個人としては、今のところ、使いたくないのが本音である

携帯トイレの改善がされれば使うかもしれない。

○8月10日(土) (曇りのち晴)

コースタイム (柏原新道)

- ・扇沢出合着 5:35
- ・扇沢出合発 6:00
- ・ケルン着 7:05
- ・石畳着 8:10
- ・種池山荘着 9:20
- ・爺ヶ岳南峰着 10:10
- ・冷池山荘着 11:30
- ・テント場着 11:50
- ・就寝 19:00

<山行報告>

前夜名古屋発 23:56 分の夜行に乗り信濃大町に向かう。ホームには同じようにザックを背負った登山者が結構いる。列車内で仮眠をとり、松本駅で急行に乗換え、信濃大町駅で相乗りのタクシーを拾い扇沢に向かう。5 時過ぎには扇沢に到着し、朝食を摂り身支度を整え柏原新道を登り始める。天気は曇り。樹林帯のよく整備された道をゆっくりと登っていく、ケルンのあるところで一本取る。少しずつ晴れ間がのぞいてくる。樹林の中でありそれほど暑くはないが、結構重くなってしまった荷物のせいか汗がぽたぽたと足元に落ちる。順調に進み石畳という場所で再び一本、通り抜ける風が心地よい。急坂をジグザグに登って行くと、稜線が徐々に近づいてくる。3 ピッチで稜線上の種池山荘に到着、なかなか良いペースで上がってきたと思う。山荘の赤い屋根と山の緑の対比が夏山らしく絵になる。山荘前より針ノ木岳がよく見える。少し長めの休憩を終え、爺ヶ岳へ続くなだらかな稜線へ向け出発する。爺ヶ岳南峰に 30 分で到着。剣岳、立山連峰の眺望が素晴らしく、しばし写真撮影会。中央峰、北峰を通過し、冷池山荘に向けて黒部側に付けられた登山道を下っていく。



冷乗越より少し登り返すと冷池山荘に到着。山荘でテントの受付を済ませ、少し離れたテント場まで 10 分登り本日終了。

まだ昼前であるがテントを張り、ビールで乾杯。日没まで 360 度のパノラマをのんびりと楽しむ。西には剣岳の雄大な岩峰と雪渓が、北には明日向かう鹿島槍の双耳峰が間近に見える。東には眼下に大町、長野市街が見え、北信の山々が少し霞んで見渡せる。

日没前、少し早めの夕食を済ませ明日の五竜岳山荘までの長い行程に備え 19 時には寝床についた。

○8月11日(日) (晴後曇り)

コースタイム

- ・起床 2:00
- ・テント場発 3:15
- ・鹿島槍南峰 着 4:40
- ・鹿島槍北峰 着 5:33
- ・キレット小屋着 6:32
- ・北尾根ノ頭 8:08
- ・G5 手前着 9:22
- ・五竜岳山頂着 10:03
- ・五竜山荘着 10:55
- ・就寝 19:30

<山行報告>

朝 2 時に起床し、簡単な朝食を済ませテント撤収。まだ辺りが暗い中 3:15 頃出発。空には雲間から星が見える。霧は出ていないのでヘッドランプの明かりで登山道ははっきり分かる。眼下に大町、長野市街の夜景を見ながら鹿島槍南峰へゆっくりと登って行く。懐電歩行は慣れていないが、夏場は涼しくてなかなか快適である。4 時を過ぎると東の空が徐々に赤く染まり始め、南峰頂上で日の出が見られる様に頑張る。日の出直前、東の空が真っ赤になった頃南峰に到着。北峰の横から太陽が出るのと同時にガスが湧き始め、山が燃えるように真っ赤に染まった。今まで見たことの無い風景に夢中になってデジカメのシャッターを押しつづける。

北峰に向けて出発、吊尾根を下り、また上り返す。北峰には約 30 分で到着、これから先は本日の核心部八峰キレットの通過と、五竜への険しい登りであり気を引き締める。キレット



小屋までは急な下りから鎖、梯子と続き、背中の荷物とのバランスに気をつけ慎重に通過する。約 300m 下りキレット小屋に到着、一息つく。口ノ沢のコルまで岩場の下降が続き、これから先は五竜の頂上へ向けて約 400mの登り返しである。北尾根ノ頭で一本取り、五竜頂上までの険しい登りに備える。G5、G4と急な岩の登りや鎖、梯子を慎重にこなし、10時頃五竜岳頂上に到着、本日のきつい登りもおわりほっと一息つく。ガスが湧いてきて展望はないので早々に五竜山荘へと下る。五竜山荘では、遠見尾根より下山する板倉さんを見送る。まだ昼前で時間があるので唐松山荘まで足をのばすか竹内さんと話したが、雨も降り始め、早朝からの行動ということでテントを張ることに決めた。雨が降ったり止んだりのはっきりしない天候なのでテントの中でのんびりと過ごし、19:30 に寝床についた。

○8月12日(月) (曇り)

コースタイム

- ・起床 02:30
- ・五竜山荘出発 04:00
- ・大黒岳 05:20
- ・唐松山荘 05:50
- ・唐松岳 06:10
- ・天狗の頭手前 08:04
- ・天狗の頭 09:40
- ・天狗山荘 10:04
- ・鍵ヶ岳分岐 11:30
- ・最低鞍部 12:20
- ・白馬テンバ 13:04

<山行報告>

まだ薄暗い中を出発する。大黒岳で日の出の時間になったが曇り空のため見えない。そこから唐松山荘まで行く。山荘に着くとたくさんの人が出発準備をしている。そこを過ぎて唐松岳で一本取る。曇っていて何も見えないのが残念である。ここから不帰キレットを通過して天狗山荘に向かう。途中梯子、鎖を頼りに二峰、一峰の岩場を通過する。少し緊張するが難なく通過することができた。そして、天狗の大下りを登る。標高差 300mの急な登りである。ひたすら登る。登りきると、ここからは稜線をゆったりした気分で歩いていく。天狗の頭付近ではこまくさが群生している。花の名前を知らない自分でも、この花だけは知ってる。天気がよければ景色を見ながらゆっくり歩けるのに、と思いながら天狗山荘まで行く。山荘で大休憩を取る。小屋のすぐ近くに水場があり、その水を飲んでみた。冷たくておいしい、今回のルートでは冷池山荘、五竜山荘では水を買っていたこともあって水は貴重であると思っていた。この後、湯を沸かしてスキムミルクを飲む。体が温まり疲れがとれる。何かホットした気分になった。そして、出発する。鍵ヶ岳の分岐までくるが、天気が悪く頂上には行かずに、そのまま、白馬に向かう。途中、杓子岳をトラバースして稜線上を歩いていく。最後の登りをジグザグに登っていくとお花畑が見えてきた。花の名前は知らないが、たくさんのお花でいっぱいである。登りきって少し下るとテント場が見えてきた。到着して、テントを張ってゆっくりした。天気が曇りで展望がよくないため、白馬岳は明日登ることにして、本日の行動はここまでで終了にした。そして、無事ここまで、来たことに感謝してビールで乾杯、後は、テントの中で食事をしてくつろいだ。



○8月13(火) (小雨のち曇り)

コースタイム

- ・起床 3:00
- ・テント場出発 4:30
- ・白馬岳頂上 5:00
- ・テント場到着 5:25
(テント撤収)
- ・テント場出発 6:00
- ・岩室 6:50
- ・大雪溪終わり 8:00
- ・猿倉 9:08

<山行報告>

今日は最終日である。天気が良くならないかと願っていたが小雨交じりの天気であった。食欲がなくて朝食は食わずに出発することになった。白馬岳頂上には 30 分ほどで到着した。天気がよければ朝日を拝める時間であったが、道標しか見ることができなかった。ここで、道標をバックに写真を撮り、早々とテント場に戻り、テントを撤収して下山準備を済ませ出発した。大雪溪手前の岩室まで 1 ピッチでたどり着いた。ここからは、雪の上を下っていく。雪が硬くて「バランスよく歩



かないと滑って転びそうである。」と想像していたら、いきなり転んでしまった。ストックをザックに入れていたのでこれ

を取り出し、歩くことにした。それでも時々、足が滑り、転びそうになる。快適な雪渓下りを予定していたが、そろり、そろりと歩く下りになってしまった。登ってくる人たちは、ほとんど軽アイゼンを着けている。これが、無難かなと思った。1時間 10 分ほどで大雪溪の終点にたどり着くことができた。ここからは、ゆるやかな登山道を下っていく。途中、白馬尻荘ではたくさんの登山者が休憩していた。そして、最後の登山口である猿倉には、テント場を出発して 3 時間ほどで到着した。この頃には天気も回復して晴れ間が出てきた。そして、休憩した後、バスで白馬駅方面に向かい、途中の「小日向の湯」で汗を流して、白馬駅前ですべての準備を終え、帰路に着いた。

<合宿を通しての感想>

今回の夏合宿は、前半は板倉さんを入れた 3 人、後半は竹内さんと自分の 2 人で、人数的には少し寂しい合宿であったが、鹿島槍～白馬岳というコースは以前より行って見たかった縦走コースなのでなかなか充実した山行であった。

天候は前半は晴れもしくは曇りで、後半は終始曇りで最終日は雨であった。後半はあまり山の展望が見えず残念であったが、稜線上は行動するには適度に涼しく快適であった。鹿島槍～五竜、唐松～天狗の岩場では天候は曇りであり、雨で滑ることもなく安全に通過することができた。

白馬大雪溪の下りではアイゼンを持って行かなかったが、雪溪の雪が固く部分的に氷になっており、滑らないように慎重に下るのに気を使い、時間も掛かった。簡易アイゼンがあった方が安全に早く下れると思った。

食料では、アルファ米を持参した。熱湯をお米の入った袋に入れ約 20 分で出来、失敗もなく鍋を汚すこともなく便利であった。ただし多少高価(2 食分 450 円)な為、コスト的には小人数の山行向けと感じた。

行程は 3 泊 4 日であったが、天候が良ければ 2 泊 3 日も十分可能であった。(2 日目に唐松まで、3 日目に白馬大雪溪より下山)

今回の合宿は天候に恵まれた面もあるが、体力的に余裕をもって望むことができた。今年の最終目標である冬合宿に向けて今後も山行、トレーニングに励みたいと思う。

鈴木